

UDトラックス(株) <ポスト新長期規制適合の大型車、中型車>

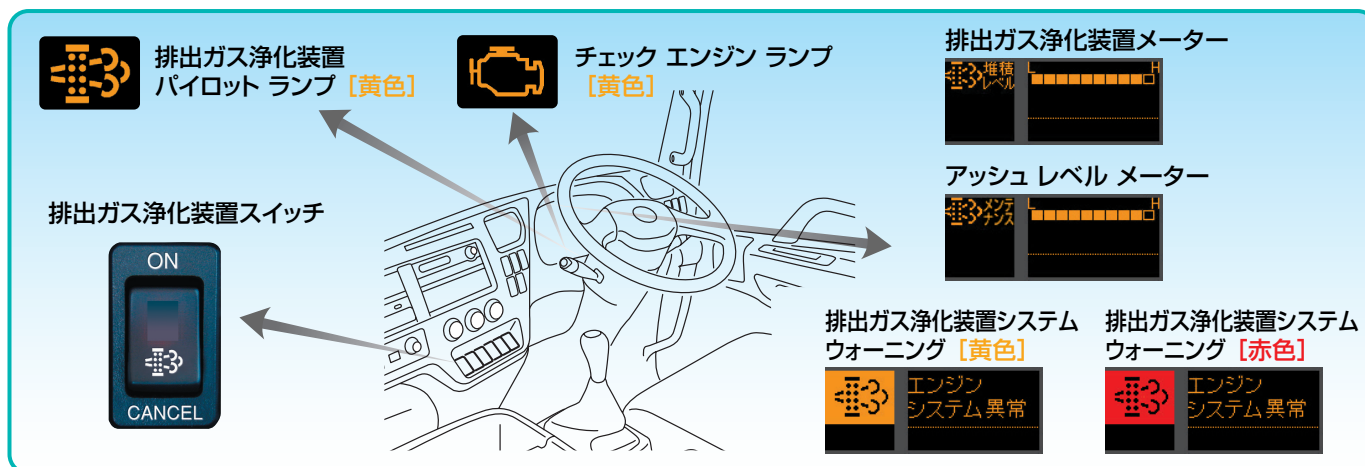
UDPC (UDパティキュレート クリーニング) 及び尿素SCRシステムの正しい取扱方法

(注) 新短期～ポスト新長期規制適合の小型車は「いすゞ自動車」を、新短期～新長期規制適合の中型車は「日野自動車」をご覧ください。

UDPC (UDパティキュレート クリーニング)

UDPC (UDパティキュレート クリーニング) のスス堆積量表示と対応方法および取り扱いについて説明。

スス堆積量表示と対応方法について



スス堆積量表示と手動クリーニング操作

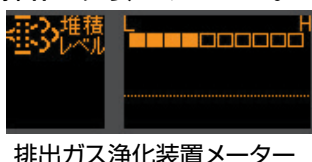
スス堆積状態	スス堆積量										
	レベル 0								レベル 1	レベル 2	レベル 3
スス堆積レベル表示 [ポイント]	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
再生要求と警告表示											
手動クリーニング操作	不要				可能				必須		不可
エンジン トルク制限	非作動								作動		
エンジン シャットダウン (エンジン自動停止)	非作動								作動		

アドバイス

- 次のいずれかの状態で使用すると自動クリーニングが作動しない場合があるため、排出ガス浄化装置パイロットランプが点滅する頻度が多くなります。
- * 低速走行が主体の場合
- * 頻繁にエンジンの始動、停止を行う走行が多い場合
- * 短い距離の走行を繰り返す場合
- * 毎回エンジンが暖機される前にエンジンを停止する場合

スス堆積状態： レベル0

レベル0の場合は手動クリーニング操作の必要はありません。ただし、スス堆積レベルが「6～8ポイント」の場合は、手動クリーニングが可能です。



スス堆積状態： レベル1

排出ガス浄化装置パイロットランプが点滅したら、すみやか(目安は200km走行以内)に手動クリーニングを行ってください。レベル1以降、トルク制限が徐々に作動します。



手動クリーニング操作方法

- 安全な場所に停車します。エンジンはアイドリング運転のままにします。
- パーキングブレーキを確実に作動させて、シフトレバーを「N」位置にします。PTO付仕様車はPTOスイッチを「OFF」位置にします。

- スス堆積レベルは、モードセレクトスイッチ(多重表示モニター外部スイッチ“DISP MODE”側またはコンピューター内の左側ノブ)を押すことにより表示される排出ガス浄化装置メーターで確認してください。
- マフラー性能を維持するためにススが堆積していない場合にも、排出ガス浄化装置パイロットランプが点滅する場合があります。点滅した際はすみやかに手動クリーニング操作を行ってください。
- 運行中の手動クリーニング作業を避けるには、運行終了時に車庫に戻った際に定期的に排出ガス浄化装置メーターでススの堆積状態を確認し、場合により手動再生を行うこともひとつの方法です。

警告

手動クリーニングを行う際は、排気口付近に可燃物が無いことを確認してください。

注意

レベル1のまま走行を続けしないでください。ススの堆積量に応じてトルク制限が行われエンジン出力が低下します。

3. 排出ガス浄化装置スイッチの“ON”側を押します。
排出ガス浄化装置再生中ウォーニングが表示されます。
アイドリング回転数が上昇します。



4. 約25分間（エンジン暖機状態の場合）お待ちください。
排出ガス浄化装置再生中ウォーニングが消えたらクリーニング終了です。

スス堆積状態：レベル2

チェック エンジン ランプと排出ガス浄化装置システム ウォーニング（黄）が表示された場合は、さらにトルク制限が行われエンジン出力が低下します。

すみやかに最寄りのUDTトラック販売会社のサービス工場にて点検・整備を受けてください。



スス堆積状態：レベル3

排出ガス浄化装置システム ウォーニング（赤）が表示された場合は、ブザーが鳴るとともに約10秒後アクセルペダルの操作ができなくなり、強制的にアイドリング回転数になります。エンジン保護のため、徐々に車速が下がり車両が停止または停止する直前にエンジンが自動停止します。ただちに最寄りのUDTトラック販売会社のサービス工場に連絡してください。



アドバイス

- やむを得ず、途中でクリーニングを中断する時は、排出ガス浄化装置スイッチの“CANCEL”側を押してください。
- ギヤを入れるなどして中断した場合は、一度エンジンを停止し、キー スイッチを約10秒以上“LOCK（OFF）”位置にしてから再始動してください。チェック エンジン ランプが点灯することがあります。
- クリーニングが終了しないうちに走行すると、再び排出ガス浄化装置パイロットランプが点滅します。
- クリーニング中は、アイドリング回転数が上昇するとともに、エキゾースト ブレーキが作動します。そのため、作動音がしますが異常ではありません。（このときは、エキゾースト ブレーキ パイロット ランプは点灯しません。）また、排気温度を制御するため、上昇したアイドリング回転数が下がり、エキゾースト ブレーキが解除される場合があります。手動クリーニングは排出ガス浄化装置再生中ウォーニングが消えるまで行ってください。

注意

レベル2のまま走行を続けるとUDPC（UDパーティキュレート クリーニング）の故障につながります。すみやかに最寄りのUDTトラック販売会社のサービス工場にて点検・整備を受けてください。

注意

万一、排出ガス浄化装置システム ウォーニング（赤）が表示された場合は、ただちに安全な場所に停車し、最寄りのUDTトラック販売会社のサービス工場に連絡してください。

UDPC（UDパーティキュレート クリーニング）の取り扱いについて

以下の現象は故障ではありません。

停車中、アイドリング回転数が変化することがあります。

- 信号待ちなどで停車し、アイドリング運転になったとき。（自動クリーニング中またはマフラー温度制御中）
- 長時間アイドリング運転を続けている場合。（白煙発生防止のため、ときどき回転数が上昇します。）

白煙が発生することがあります。

- マフラー出口から白煙が排出されることがあります。
* 水蒸気が排出されるためです。
* 排気温度が十分に上昇すれば消えます。
- 雨天走行後や洗車後の手動クリーニングでは、マフラー表面から白煙が発生することがあります。
* マフラー表面に付着した水分が蒸発して水蒸気が発生するためです。
- 指定以外の燃料を使用した場合は、白煙が発生し続けることがあります。エンジンや排出ガス浄化装置などに悪影響をおよぼし、故障する恐れがありますので、必ず超低硫黄軽油（S10）を使用してください。

排出ガスの臭いが従来のディーゼル車と異なります。

- 触媒を通じて排出ガスを浄化しているため異なった臭いになります。

自動クリーニング中はアイドリング ストップ システムが作動しない場合があります。

UDPC（UDパーティキュレート クリーニング）の定期清掃について

UDPC（UDパーティキュレート クリーニング）用フィルター一体型マフラーは、その性能を維持するために、定期的（GH5型エンジン搭載車：2年または20万km走行のどちらか早い方毎、GH7、GH11、GH13型エンジン搭載車：2年または25万km走行のどちらか早い方毎）に清掃を行う必要があります。これは、燃焼除去できるススとは別に燃えないアッシュ（灰）がフィルター内に堆積していくためです。アッシュの堆積量の目安は、アッシュレベルメーターで確認してください。清掃は最寄りのUDTトラック販売会社のサービス工場にお申し付けください。

エンジン オイルについて

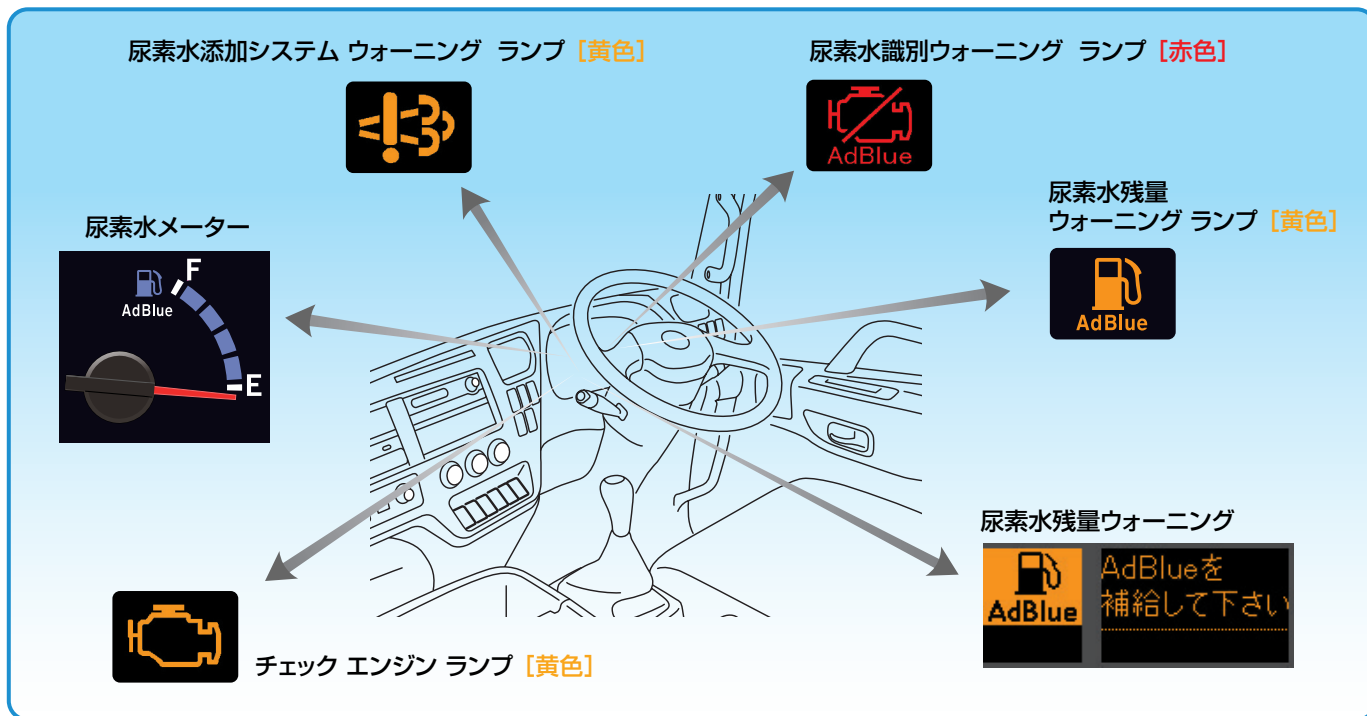
UDPC付き車のエンジン オイルの補充または交換には、必ずメーカー指定の低アッシュ（灰分）「VDS-4（DH-2）規格」オイルを使用してください。「VDS-4（DH-2）規格」以外のエンジン オイルを使用すると、UDPCへのアッシュの堆積が早まり、目詰まりが起きやすくなります。アッシュはオイルの燃えかす（灰分）で、主にオイルの添加剤成分から生成される物質です。アッシュの生成を最小限に抑えるためにも、必ずメーカー指定オイルを使用してください。

尿素SCRシステム

尿素SCRシステムの液量表示とウォーニング ランプおよび尿素水(アドブルー®)の取り扱い上の注意について説明。

*アドブルーはドイツ自動車工業会(VDA)の登録商標です。

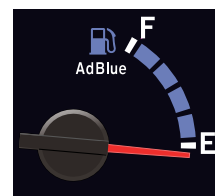
液量表示とウォーニング ランプについて



液量表示と各ウォーニング ランプの説明

尿素水メーター

タンク内の尿素水の残量を表示します。



尿素水残量ウォーニング & 尿素水残量ウォーニング ランプ

尿素水が少なくなると表示および点灯します。

※尿素水残量が少なくなったときは、お早めに指定の尿素水を補給してください。



尿素水識別ウォーニング ランプ & チェック エンジン ランプ

- 指定の尿素水以外の液体を補給したときに点灯し、一定距離を走行するとウォーニング ブザーが鳴ります。
- また、タンクが“空”になったときも点灯し、ウォーニング ブザーが鳴ります。



尿素水添加システム ウォーニング ランプ & チェック エンジン ランプ

- 尿素水添加システムに異常が発生すると点灯します。
- ランプ点灯後、一定距離を走行するとウォーニング ブザーが鳴ります。
- また、タンクが“空”になったときも点灯し、ウォーニング ブザーが鳴ります。



警告

尿素水識別ウォーニング ランプ(赤色)とチェック エンジン ランプ(黄色)が点灯し、ウォーニング ブザーが鳴っている時にエンジンを停止させると、再始動ができなくなります。指定の尿素水を補給し、キーON時に尿素水残量ウォーニング ランプ、尿素水識別ウォーニング ランプおよびチェック エンジン ランプが消灯すれば再始動できます。

注意

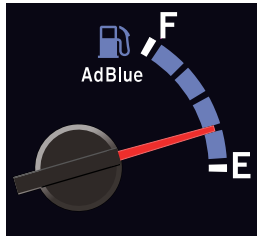
ランプ点灯状態での走行は止めてください。排出ガス悪化の原因となります。最寄りのUDTラックス販売会社のサービス工場にて点検・整備を受けてください。

尿素水メーターと尿素水ウォーニング ランプの表示例

満タンのとき



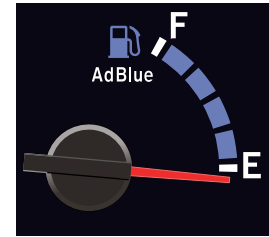
液量が少なくなると



警報表示および
ウォーニング ランプ点灯



タンクが“空”になると



警報表示およびウォーニング ランプ点灯



ウォーニング ブザー作動

警告

この状態でエンジンを停止すると、再始動ができなくなります。

※尿素水メーターの指針位置は、タンク容量や車両傾斜などにより上図と一致しない場合があります。

以下の現象は故障ではありません

尿素SCRシステムは、エンジン停止後も約2分間システムが作動しています。サプライ モジュールから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

尿素水の取り扱い上の注意

【取り扱い上の注意】

- 無色透明、無臭、無害であり身体に触れても問題のない安全な物質で、化粧品にも使われており、取り扱うための資格も不要です。
- 尿素水は、必ず日本工業規格 (JIS) に適合した弊社指定のものを使用してください。指定以外の尿素水を使用すると尿素水添加システムの故障の原因となります。
- 尿素水を入れる容器は、弊社純正部品の5ℓ携行タンク、または尿素水取扱事業者が推奨する専用の容器を使用してください。一般の容器、他で使用しているもの、汚れているものは尿素水の品質が保てなくなりますので、絶対に使用しないでください。

【応急処置】

- 尿素水は極めて安全性の高い液体ですが、体質によってはごく稀に炎症をおこす可能性もあります。身体にこぼした場合は、水で洗い流してください。間違えて飲んだ場合は、水または牛乳を飲んでください。

【火災及び漏洩時】

- 尿素水自体は不燃性ですが、火災の場合は速やかに安全な場所に移してください。
- 尿素水をこぼしたら水で洗い流してください。廃棄する場合も大量の水で薄めて下水に流しても問題はありません。但し、廃棄する場合、窒素規制があるところは産業廃棄物として処理願います。

【保管方法】

- 容器は密封し、屋根のある風通しの良い室内で保管してください。もし凍結しても解凍後の品質には変わりはありませんので、そのまま使用できます。
- 尿素水は変質しにくい液体ですが、水分蒸発しないよう密栓保管してください。